

病院だより

令和7年1月号 第446号

新年のご挨拶

昭和大学病院 病院長 さがら ひろのり 相良 博典

新年明けましておめでとうございます。令和7年は、いわゆる正式な干支である十干十二支でいうと、乙巳（きのとみ）にあたります。

乙巳の巳は蛇のイメージから「再生と変化」を意味し、脱皮をしながら、さらに力強く成長していく、つまり「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味があるそうです。

去年は医師の働き方改革元年で、大きな変革の年でもありました。その中でさらに充実させていかなくてはいけないものは各職種、各機関との今以上の密な連携でした。

昭和大学病院は、医療人の育成は勿論のこと、高度の医療提供、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研究を実施する能力等を備えた特定機能病院であると同時に、地域に根ざす地域医療連携における中核病院でもあります。一人の患者さんを、かかりつけ医と病院との二人の主治医で診ることで、患者さんに切れ目なく安心安全な医療を提供することを目指す「二人主治医制」を導入しています。

連携、というのは、実は英語にするのが難しい言葉です。仕事で、「この件は誰それに連携してください」、という場合、一緒にやるのか、事後情報共有すれば良いのか、協力を仰いでともに解決を図って欲しいということなのか、linkage（連携）か、alignment（提携）か、cooperation（協力）なのか、状況依存的で、曖昧なことが多くあります。地域医療連携を考える上で、私が一番大切にしたいと思っているのは、英語でいうところの、「tie」（結びつける）、心の通い合いや絆とか、信頼関係に基づく繋がりです。

大学病院で行われる高度先進医療は、いわば有事の医療であって、いうまでもなく、地域の患者さんの毎日は、地域の先生方によって支えられています。大学病院が、地域において適切に役割を果たすには相互信頼が不可欠です。相互信頼とは、患者さんのために、お互いに協力し合う先に生まれる、心の繋がりだと思います。これがあれば、必要なことを必要な時に相談できるようになります。

自ずと、connect（繋がり）でき、linkage（連携）が生まれます。ここに生まれる、ありがとう、という言葉が接着剤となって、強い繋がりが育まれるのだと思います。その緊密な連携の結果は、地域の医療の質を、一層高めてくれることでしょう。

ヒトは交流し合い、助け合うために他者を必要とするし、

他者をつなぎ、他者に支えを与える事で幸せを感じる

—ロバート・ウォルディング博士—

本年も、昭和大学病院らしさを前面に押し出し「断らない」「待たせない」をスローガンとして邁進していく所存です。本年も宜しくお願いいたします。

病院だよりでは、見出しに色分けをすることで読者の皆さまが読みやすいよう工夫をしております。

黄色見出し：患者さん、患者さんのご家族向け

青色見出し：医療関係者向け

緑色見出し：医師の配属・異動・退職について



新年あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今年の干支は「巳」すなわち、ヘビです。ヘビは脱皮しながら成長することから「生命」や「再生」の象徴とされています。また、ヘビは医療を象徴する生き物とされており、杖にヘビが巻き付いた「アスクレピオスの杖」は世界保健機構（WHO）の紋章をはじめ医療の象徴として世界中で多く用いられています。



自治体によっては救急車にも描かれていますのでご存じの方も多いことかと思ひます。そのため、今年は医療関係者である我々にとっては自身や医療を見つめ直す年になるように感じられます。さらに本年は4月に昭和大学は昭和医科大学に校名を変更する歴史的な年です。一昨年には一定の条件のもとで医学生による医行為が法的に認められるようになり、昨年には働き方改革が実行されていることをはじめ、診療・教育・研究を3本柱とする大学病院を取り巻く環境は大きな変革の渦中にあります。そのような中で、本年は本学の教職員が新たな気持ちで心を一つにして頑張っていきたいと思ひます。

本年も地域の皆様のご期待に応えていくために昭和大学病院附属東病院は昭和大学病院と連携・連動してより一層、努力してまいります。特に、地域の医療機関の先生方との連携をより強化し、「お待たせしない」「お断りしない」「しっかりと報告をする」ことに重点的に取り組み、二人主治医制(病診連携)をさらに強化して参りたいと思ひます。引き続き、関係の皆様のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

最後に全ての皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のあいさつとさせていただきます。



今月は「1年目 診療放射線技師」の三輪 幸大（みわ こうだい）さんをご紹介します。



診療放射線技師

【三輪 幸大さん】

診療放射線技師を志した理由を教えてください

家族が医療従事者だったこともあり、幼い頃から医療系の職種に就きたいと考えていました。中でも診療放射線技師という職種は、最新の医療技術を駆使して診断に役立つ画像を提供し、その画像を通じて病気の早期発見に貢献できる点に魅力を感じました。そのため、私もこの仕事に就きたいと考え、目指すようになりました。



現在、どのような業務をしていますか??

現在は主に X 線撮影や骨塩定量検査を担当しています。目的に応じた撮影方法や患者さんの容態に合わせた対応が求められ、最初は戸惑うこともありましたが、経験を積む中で少しずつ技術を磨き、自信を持てるようになりました。最近は IVR 業務にも携わり、多職種と連携しながら新たな知識を学んでいます。

今後、どのような診療放射線技師を目指しますか??

「患者さんのために」を第一に考えて行動できる診療放射線技師を目指しています。短い検査時間の中でも、温かい声掛けや笑顔で心をなごませることで、不安や心配を少しでも和らげられるような接遇を大切にしています。今後は、CT 検査や MRI 検査など、より多くの分野で患者さんに貢献できるよう、日々努力を重ねていきます。

お知らせ

令和7年1月13日(月・祝)の診療体制について

令和7年1月13日(月・祝)の外来診療は以下の通りとさせていただきます。
患者の皆さまにはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

対象日	診療状況	
	外来	救急外来
令和7年1月13日(月・祝)	臨時診療 【内科系】・【小児科】 8:30~17:00	救急診療は 通常通り実施します。

※臨時診療日は人員を縮小しているため、専門医による診療を提供できない可能性があることを予めご了承ください。

※臨時診療日は、休日加算および時間外選定療養費(注)(8,800円)を徴収いたします。

(注) 紹介状持参、当院かかりつけで予め来院指定の患者さんは時間外選定療養費の徴収はありません。





トピック

小児病棟へクリスマスプレゼントをいただきました

12月13日（金）に一般社団法人「みんなのレモネードの会」の代表をされている榮島四郎様より、小児病棟に入院している子ども達にクリスマスプレゼントが贈られました。

一般社団法人「みんなのレモネードの会」は、小児がん患児家族の立場から、小児がん啓発活動、患児やその家族の交流会などの活動をしており、その活動の一環として当院にプレゼントを贈呈いただきました。贈られたプレゼントは、病棟のプレイルームで大切に使用させていただきます。



「みんなのレモネードの会」

12月20日（金）にNPO法人「歌の力」の皆さまより、小児病棟に入院している子ども達にクリスマスプレゼントが贈られました。

NPO法人「歌の力」は、子どもや高齢者に対するチャリティイベント企画やボランティア活動、国際親善活動事業を行っており、その活動の一環として当院にプレゼントを寄贈いただきました。贈られたプレゼントは、クリスマス会で子ども達へ配布するとともに、病棟のプレイルームで大切に使用させていただきます。



NPO法人「歌の力」

12月20日（金）に「lucaemma」様より、小児病棟に入院している子どもたちへ、バルーンアートをご寄贈いただきました。いただいたバルーンアートは、小児医療センター内のプレイルームに飾り、入院中の子どもたちに元気を届けています。



「lucaemma」



トピック

当院行事食のご紹介

当院での食事は、医師の指示により病状にあった献立とし、行事食を取り入れた温かい食事をご提供しております。年末年始は「大晦日」「お正月」「七草」を予定しております。

※写真は昨年度のものです。



七草（1/7）



大晦日（12/31）



お正月



令和6年11月30日（土）、シェラトン都ホテル東京にて第40回昭和大学クリニカルセミナーを開催いたしました。来場参加形式にて当日は197名の地域医療機関の方々にご来場いただきました。

講演会終了後にはご来場いただいた地域医療機関の方々への日頃のお礼と、当院医師との親睦・交流を図る目的として「懇親会」を行い、当院医師・看護師・ソーシャルワーカー等も140名参加させていただきました。先生同士で会話が盛り上がっている場面や、お食事を楽しまれている様子が見られ、盛会のうちに終えることが出来ました。

改めて、地域医療機関の方々のご期待に添えるよう昭和大学病院・附属東病院職員一同努めて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

医療連携室



※講演会の様子



※懇親会の様子

■講演会

<病院紹介>

「昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院の施策と概要」

昭和大学病院 病院長 相良 博典

<講演>

- 1) 「咳嗽診療 Up To Date」
- 2) 「あきらめない肺がん治療」

呼吸器・アレルギー内科 教授・診療科長 田中 明彦
肺がん治療センター 特任教授・センター長 山上 裕機



『相良病院長』



『田中診療科長』



『山上センター長』

トピック

サクス！グッドプラクティスパートナー(第53回)

当取り組みは、昭和大学病院・附属東病院において関係職種間での行動（臨床に関する事項）を相互にプラス評価することにより、関係部署との連携を良好にし、**チーム力を高めること**で患者さんにより良い医療を提供することを目的としております。

医師から臨床検査技師へのありがとう！



超音波センターのみなさん

超音波センター検査技師さんへ

当日緊急の検査オーダーに対して迅速に対応していただいた。

【患者さんに与えた良い影響】

緊急入院当日に診断がつき、当日中に治療介入をすることが出来た。

臨床検査技師さんへ

検査項目の追加に対して、丁寧に
対応していただいた。

【患者さんに与えた良い影響】

採血する必要がなくなり、採血
回数を減らすことが出来た。



リハビリテーション室から看護部へのありがとう！



N9 スタッフのみなさん

N9 看護師さんへ

多職種チームカンファレンスを通
して患者さんの日常生活の課題
を共有し、適切な支援ができた。

【患者さんに与えた良い影響】

看護師さんを含めた多職種で、
適切な退院支援を行えた。

N10 看護師さんへ

多職種チームカンファレンスを通
して、患者さんの精神面の課題を
共有し、適切な支援ができた。

【患者さんに与えた良い影響】

看護師さんを含めた多職種
で、適切な退院支援を行えた。



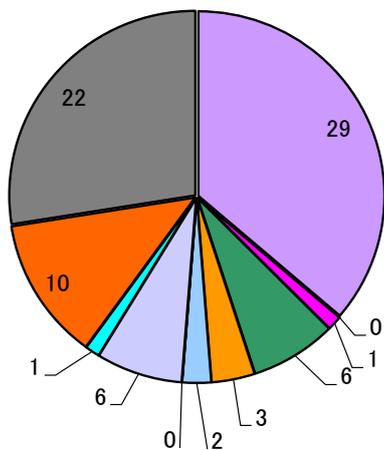
N10 スタッフのみなさん

日頃よりチーム医療にご協力頂きありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

患者さんのご意見・ご要望

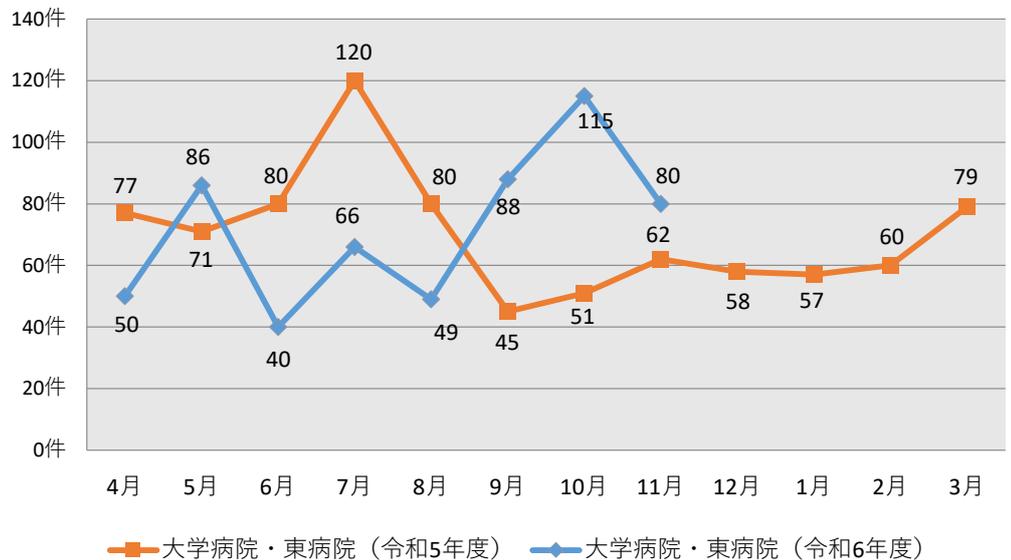
ご意見・ご要望	回答	回答部署
予約センターへの電話が繋がらない。	電話が繋がりにくく、ご迷惑をお掛けして申し訳ございません。複数回線に対応しておりますが時間帯により繋がりにくい時間が存在しております。保留メッセージにも流れておりますが、メールでの予約変更も24時間受付しておりますのでご利用ください。	医事外来課
院内にいる方のマスク着用について	このたびはご意見ありがとうございます。現在、マスクの着用については国や自治体のガイドライン、ならびに院内の方針に従って運用しております。状況に応じて、患者様への配慮をもって適切な指導をおこなっておりますが、院内でマスクを着用しない方がいらっしゃる場合に関してはより一層の対応を強化していく所存です。具体的にはスタッフ一同、患者様に対して注意喚起を徹底し院内の感染対策を維持するために必要な措置を講じていきます。	感染管理部門

令和7年1月号掲載分
ご意見・ご要望の内訳
昭和大学病院・東病院総件数
80件



- 態度・接遇
- 診療内容
- 予約
- 待ち時間
- 食事
- 会計システム
- 売店
- 環境(清掃・設備備品・エレベーター)
- 環境(駐車場)
- 感謝
- その他

令和5年度・令和6年度ご意見・ご要望の推移



異動

【学外施設へ】令和7年1月1日付

- 整形外科 畠山丈、安島桃子、鬼丸悠
 - 消化器・一般外科 杉浦知可子
 - 脳神経外科 中山禎理
 - 産婦人科 河村まいか
- 【学外施設から】令和7年1月1日付
- 産婦人科学 中村豪
 - 脳神経外科 高野駿
 - 呼吸器・アレルギー内科 岸野康成

【附属施設から】令和7年1月1日付

- 救急診療科 風間慎太郎（江東豊洲病院から）

【附属施設から】令和7年1月6日付

- 救命救急科 島田 拓哉（藤が丘病院から）

【附属施設へ】令和7年1月1日付

- 呼吸器・アレルギー内科 岸野康成（江東豊洲病院へ）
- 脳神経外科 杉山達也、高野駿（江東豊洲病院へ）
- 腫瘍内科 久保田祐太郎、鈴木梨沙子（横浜市北部病院へ）
- 産婦人科 遠藤周祐（横浜市北部病院へ） 永井英輝（藤が丘病院へ）
- 小児外科 石井美凪（江東豊洲病院へ）
- 血液内科 半沢俊樹（江東豊洲病院へ）
- 消化器一般外科 楳佐古花波（江東豊洲病院へ）

【附属施設へ】令和7年1月4日付

- 小児科 岡田祐樹（江東豊洲病院へ）
- 【附属施設へ】令和7年1月6日付
- 救命救急科 永樂学（藤が丘病院へ）

新規採用

令和7年1月1日付

- 産婦人科 大田貴斗
- 腫瘍内科 池田剛
- 小児心臓血管外科 清水春菜
- 放射線科 後閑武彦

退職

令和6年12月4日付

- 循環器内科 荒井研
- 令和6年12月31日付
- 放射線科 石塚久美子
 - 泌尿器科 上村円夏
 - 乳腺外科 三階紘子



編集後記

食道がんセンター 講師 ^{やました}山下 ^{たけし}剛史

新年明けましておめでとうございます。令和7年には、ついに国民の約1/4が後期高齢者となるとのことです。昨今の材料費高騰、人材不足などの困難がある中で、医療現場でもさらなる課題が出てくる可能性があります。「患者さんを第一に」という気持ちは変わらず、楽しく元気な1年になればと思います。本誌では皆様の笑顔をたくさんお届けしたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。



昭和大学病院

検索



昭和大学病院附属東病院

検索

発行 昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院

発行責任者 昭和大学病院長 相良 博典

編集責任者 広報委員長 山岸 昌一

〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8

TEL: 03-3784-8000 (代表)

昭和大学病院・附属東病院の理念

- 患者本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- 患者さんと共にチーム医療を実践する。
- 特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- 人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

※記事見出しの色分けについて

病院だよりでは、見出しに色分けをすることで読者の皆さまが読みやすいよう工夫をしております。

黄色見出し：患者さん、患者さんのご家族向け

青色見出し：医療関係者向け

緑色見出し：医師の配属・異動・退職について